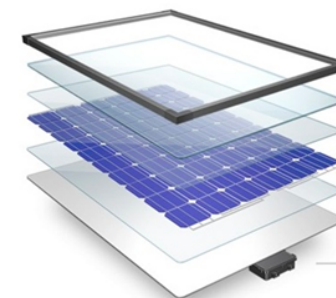


国内の状況

- FIT（固定価格買取制度）により太陽光発電の導入が急速に進展
- 排出量のピークは2030年代後半、年間50万から80万トンが排出される見通し
- 国内の年間排出量は推定約4,400トン（リユース約3,300トン、リサイクル約1千トンまたは処分）
- 使用済み太陽光パネル等の放置・不法投棄、有害物質の流出・拡散、最終処分場のひっ迫などの懸念

県内の状況

- 太陽光パネルの多くは産業廃棄物で「金属くず」「廃プラスチック類」「ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず」の3品目の混合物
- 現時点で県内での排出量は増加傾向にない
- 専用リサイクル施設設置事業者1社



太陽電池モジュールの構造（引用元：自然電力）

今後の対応

- 廃棄量の削減
 - ・ リユースに関するガイドラインの周知
 - ・ 太陽光発電施設の保守点検等に従事する技術者育成への支援（⇒製品寿命の延長）
- リサイクルの促進
 - ・ リサイクルに関するガイドラインの周知
 - ・ 3R補助金による技術開発や施設導入への支援（⇒リサイクル業者の育成）
- 適正処理の確保
 - ・ 業界団体による有害物質含有情報の公開への取組の周知
 - ・ 産業廃棄物の性状確認、マニフェストによる処理状況確認の徹底
 - ・ 不法投棄防止に向けた監視指導、発生事案への厳格対応
 - ・ 「（仮称）太陽光発電施設の設置等に関する条例」による事業者の把握
- その他
 - ・ 解体業者など排出事業者への普及啓発
 - ・ リユース・リサイクルの体制構築に向けた地域検討会等への助言